FIKO NEWS FLASH

No. 9 October 1949

新聞部　榮光中學校
横須賀市田浦町船越

精神的港へ

去る九月二十五日、本校に於て八時三十分の御ミサより午後四時三十分の聖体降福式までの約八時間にわたつて、信者の修養会が行われた。この修養会の目的は、信仰生活を無のない習慣的な状態より守ることと肉身と精神との釣合をとるために精神的成長の機会を与えることとの二つであつた。即ちこの修養会によつて次にまつ精神上の戦いの準備をするのである。

御ミサの説教の時に、ヘルヴェク神父様は大天使聖ミカエルについて話された。即ちミカエルは神に対して、誠実、忠実で且つ戦に対する熱心が特にすぐれていた。我々も彼にならつて常に感謝を捧げ物とし忠実と誠実の心を持つて、神に仕え悪魔と戦わなければならない。又本校に於ける信者はこの点で大いに努力し立派な模範を示さなければならない。ミサの後約一時間の自由時間が有り、各自本を読み又はゲームをしたりして遊んだ。

次のお話しは修養会の目的とキリストの精神についてであつた。それに於て我々はすべてに勝る美しい物を聞きとして得たのである。即ちキリストこそ最も美しい模範であることをナザレトのイエズスについて話された。

それは、まずキリストはナザレトに居たころは、小さなかくれた貧しい家にいてたえず労働していた。これによつて、金とその仕事のみによつては人の價値をきめることは出来ないことがわかる。いつでも誰でも自分の義務を忠実に果していれば、それで立派な生活といえるのである。又仕事をするときも常に時間を大切にしなければならない。時間は試験用紙の様であります。だから白紙で出すのはよくないのである。即ち怠惰はすべての悪の泉である。そして又父母に対してはキリストのように愛と尊敬の心をもつて仕えることが必要である。

この話しにつづいて聖体訪問があつて、後一時間半ぐらいの書休があつた。

第三のお話しは主に、式と祝祭についてであつた。

即ち我々は洗礼によつて偉大なる恵みを受けているのであるから時々感謝を捧げるべきである。又この生命、完全な人間たるために必要なこの聖寵を他の人々にもわけ与えることが出来るように努めなければならない。そのためには模範が最も必要である。

このようなフォス神父様の話しを最後として、皆の待ちこがれていたオヤツが出た。そして荘厳な聖体降福式もすんでから皆で記念写真をとつた。

（[redacted]記）

校長先生の御誕生日

去る十月十一日（火）学校へ行くと、今日は四時間だという噂がたつていた。朝礼の時に始めて校長先生の御誕生日という事を知つた。

3B白石君はおよそ次のようなお祝いの言葉を朝礼の時にのべた。「校長先生は今日で第三十七回目の御誕生日を迎えられました。先生はこの榮光中学校をなお一層よいものにして立派な人を世の中に送り出し、新日本再建への大きな希望を抱いていらつしやる。僕達も先生の御希望にかなうような立派な人になりたいと思います。最後に先生の御希望がかなうように御祈りしたいと思います。」

白石君の祝辞にかわつて校長先生は

「今朝ヘルヴェク先生から皆が今日は四時間だといつているが本当に四時間ですかと聞かれて大笑いさせました。私は今日はいつもの通り六時間やりますと答えましたがそれではあまり可愛そうですから来週の木曜日を休みにしましょう。さつき白石君のいつたように私の為に祈つて下さい。そして皆立派なんになつて下さい。これが私の希望です。」とお話しになつた。

（IC[redacted]記）

榮光晴

十月四日（火）は、一年の遠足であつた。

昨日までからりと晴れていた空もようがしだいに悪くなり、当日は小田原―強羅と登山電車の中で気をもんでいたが、雨はますます降りつのるばかり。強羅駅で待つたが、雨はいつこうにやまない。しばらく待つたのちぼくたちは近所の女学校の教室を二つかりてそこで晝食となつた。みんな思い〳〵の美味しいお母さんの御料理にほおを落ちるばかり。

やがてみんなの話にも花が咲き笑いのうちに話しあつてなごやかな風をみせたがこれが山の上だつたらそよおよかつたろうになあとそれでもみんなうれしそう。小ぶりになつたので早登山へのぼり、そこにあつた宿屋早寝室に入つた。ここの広間でエネ中会開催。

ペレッテイ先生の馬鹿の一つおぼえともいうべきチョンバイが大かつさいをあび、校長先生はヘルヴェク先生をひつぱり出して、御得意の海ぞくの歌をうたい出す。森本先生もふんきして、さすが社会科の先生、シーザーの最後を演ずる。先生方のさすが上手なわざに拍手かつさいだが生徒の方では自分のやるのがはずかしくて、机のかげにかくれてくすくす笑つているものもいると云うしまつ。しかし生徒側でも志あるものまけずにこれに応じ、時のたつのも忘れて部屋はわれかえるばかり。最後に校歌をみんなで合唱して解会。

小涌谷まできれいな谷の流れ、雨につゝまれた山もながめながら下り、登山電車で帰途についた。（IC[redacted]日記）

天狗の故郷

前日迄ぐずついていたお天気も新任のヘルヴェク先生をあわれんだのか、ちらりちらりと青空が顔を出す十月十四日生徒達は期待と想像で昭をふくらませながらめずらしく早起きして五時三十五分横須賀発の電車で東京まで東京から中央線にのりかえ所々に残つている面影をとり

又立川附近からひよいとその美しい姿を見せた富士にいくらか「ボー」としながら奥川着、そこからのろりのろりと走る汽車に乗つて興奮につきいよいよ歩き始めた。

途中で相模湖と男性的な美しさを持つ相模ダムを見たと思つたらすぐ山にかかり小仏峠まで急なデグザグコースをとりながら遂に一度も休まずにのぼり切り、第二遠足目的の中食をとり高尾山に向つて出発、途中高尾山パノラマで後　手段なる「小休憩」を行い、先生、生徒の歌及びの代表的人物二人が登場、先生方をこきおろし自分の組を「自慢」したために皆は腹の痛くなる程笑つた。この笑いによつて一行は元気百倍し「しかし、生理学的に云うと……」などと云われたがたしかにこの笑いは薬になつた様だつた。

帰路なつかしい天狗様の兄弟分

の天狗と会見し天狗様の多幸を祈って下山し、そこで工夫をもらって帰途についた。

（2A [illegible] 記）

山猿の失敗

二三日前のうっとおしい天気がつづいて、十月十四日、三年生の遠足の日も、朝からくもり勝の天気であった。朝全員大船駅に集合し、大船より小田原へと向った。車窓からは、風に波打つ稲穂が僕たちの目に映じた。

やがて列車は小田原に着、強羅行の満員の登山電車にのりこんだ。深い谷をながれる川、くだけよとばかり流れ落ちる滝。人員なき大自然のくりひろげる佳景は、実に壮観であった。満員の電車にゆられた僕達は、やがて海抜五五三米と言われる強羅に着いた。ここで人員を調べた後いよ〳〵明神岳を指して、歩きはじめた。約三十分ばかり歩いたところで休けいがあり、山猿先生の命令によって、弁当の十八％を腹につめこんだ。道を一たびはまちがえたが、後順調にあぜ道を進んでいくと、沢に出てしまった。ここで沢のぼりを敢行。落石と、けわしい崖と戦いながらのぼるのは、実に困難きわまりなかった。よほど登ったと、その時、一行の前に大きな崖が待ちかまえていた。そこで一応昼弁当にし、頂上に登ること不可能とみて、ここからひきかえす事に決定して、一時半ごろまで遊んだ。一時半頃沢を下りて、もと来た道を下った。途中草原に身をやすめて、「海賊の歌」「身投げ歌」等を合唱して、工夫の配給を受けたその後、シャモと干大根とが、先に功労を求めると称して、逃走したるため、復讐成らずして終った。少し雨が降ってきたため、森に入って、「たぬきの歌」やゼスチャに楽しい一時を過した。その後箱根の山猿先生を先頭に山をおりた。強羅より、再び満員の電車にゆられて途についた。明神岳古服し得ず、まさに「山猿木より落ちる」の失敗の巻であった。

（3A [illegible] 記）

オアシス完成

生徒達から栄光式長期計画などと題口を云われながらも着々として工事をつづけていた講堂体育館がいよいよ完成した。（第五号参照）講堂は約千人を容する大きなもので淡茶色に塗られた内部は非常に明るい感じがする。使い始めについて大きな問題がある。それは椅子の事で校長先生の御計画では七百五十座入れるそうであるが一脚千数百円をするのがお客様を直接板張りの床に座らせるわけにもいかず校長先生は大弱りだそうだ。体育館はもう完成して体操の時間に使っているが、体操部も火木土の三日間を一生懸命に練習している。夜間照明用電燈のついているこの建物は将来栄光のオアシスになるであろう。

完成までに二年間を要したこの工事中、校長先生は「厂史的大失敗（？）」をなさった程熱心に監督なさった。校長先生及び工事関係者各位に対して感謝しなければならない。

又理科校舎はあと二週間ばかりで水道工事を終り使用を開始すると云うことである。なお講堂の西隣りのなにもない所は当分工事に着手しない予定である。

（2C [illegible] 郎記）

病人をたずねて

△ [illegible]君

九月十六日から肋膜炎で入院中の [illegible] 君のお見舞に行った。病院の入口を入り幾つか角をまがって [illegible] 君の部屋をノックする。[illegible] 君は寝ていたが僕等が入って行くと目を覚して紫外元気に迎えて呉れた。病室は一人一室制で、明るくのびのびとした感じの部屋だ。

絶対安静で起きることは勿論考えごと勉強も禁物だと云う。勉強の皆より遅れることはさぞつらいことであろうと御長の毒に思った。[illegible] 君は学校のことについて僕達に色々質問をあびせた。軍隊な入院生活にあって学校の様子を知ることは何より楽しみだろう。

僕等のお見舞を受けてとてもよろこんだ。[illegible] 君、なお切手や雑誌を出して見せて呉れた。切手を集めることは興味深く、病気にもさわらないし、その上知らず〳〵の中に知識を増すよい趣味だと思う。

こんなに書んで呉れるなら時にはお見舞に行って慰めて上げたらよいと思った。しかしあまり度々行くと却って迷惑になるかも知れない。

[illegible] 君は二学期三学期も登校出来ないのだそうである。私達は [illegible] 君、栄光の病気欠席の生徒いや世界の凡ての病人のために、一日も早く平癒するよう大いにお祈りをしようではありませんか。

（3A [illegible] 記）

△ [illegible]君

新学期も始まって間もない五月から休んでいる [illegible] 君はどうしているであろうか。休んだ時の病名は肋膜炎であった。この病気は今位の年頃にならないとかからないそうである。梅雨もあけて病気はすっかりよくなったが、やはり病後の現象として目が悪くなった。即ち本などをちょっと長く読んだりするとすぐに目が悪くなりとてもこの様子では勉強は出来ないのである。

困ると云えばそれだけで、毎日ぴんぴんしている。学校へ来るのは、いつになるか分らないが今学期の終り頃にはなんとか出られるかもしれないと云うことである。

△ [illegible]君

去年十月七日の朝ころんだきり歩くことが出来なくなった [illegible] 君はもう一年も休みっぱなしであった。一家四人が足の神経がきかなくなってしまったのである。原因は、皆んなで食べた海の中に入っていた鉱物質の中毒だそうだ。休んでからちょっとの間は友達の見舞もあったが近頃は誰一人としておとずれる者も無い。夏祭りや暮居のキャンプに学校の好意で参加することが出来たのは病人としても幸福とも云えよう。最近横須賀市立病院へ入院してせきずい注射を多量にうって退院したがまだ何にもすがらないでは歩くことが出来ない。しかし近いうちには、田浦の知合の家から松葉杖にすがってでも登校したいと云ういきごみだ。

（3A [illegible] 治記）

野球場新装

校長先生が一年前から計画され、誰もが待望んでいた舊行進場兼野球場の工事がいよいよ始められました。この工事は東京の山田組が受け持ち十月二十三日頃着工して、聖フランシスコ・ザヴェリオの祝日である十二月三日には完成し、大雨の後に出来る数々の池や、その水をかい出したりそれを埋めようとしている生徒の姿々、晴れの日に白い顔を出している真黒なアスファルトに見まれるでしょう。

この費用、ざっと八十五万円。校長先生は「もっと予算があったら、他の所も修理したいのですが」といわれますが、工事中の休み時間、生徒は校庭の隅に追いやられ、完成後は、野球のすべりこみが出来なくなり、その上、ボールがよくへり、バウンドが正確ではあるが高くなるなど、新らしい野球場が出来る迄の当分の間、野球部員には、うれしい悲鳴となるでしょう。

（3B [illegible] 記）

秋の野球リーグ戦

九月十七日より開始された校内野球リーグ戦は毎土曜日午後一時より行なわれた。そして左図の様な結果をおさめた。

	1A	1B	1C	1D	勝	負	勝率
1A	×	●	○	●	0	2	0
1B	○	×	●	●	1	2	3.33
1C	○	○	×	○	2	0	10.00
1D	○	○	●	×	2	1	6.66

	3A	3B	2A	2B	2C	勝	負	勝率
3A	×	○	○	○	●	2	1	6.66
3B	○	×	○	○	●	2	1	6.66
2A	●	●	×	○	●	0	3	0
2B	●	●	○	×	○	1	2	3.33
2C	○	○	○	●	×	3	1	7.50

○…勝　●…負　×…未終了試合

（3A [illegible] 治記）